

市町村における発掘調査の概要
平成 22 年度（2010 年度）

平成22年度 市町村教育委員会が主体となる発掘調査一覧

別紙

番号	管内	市町村	遺跡名	調査理由	面積	備考
1	石狩	札幌市	K518遺跡	開発事業	6375m ²	
2		札幌市	H529遺跡	開発事業	1530m ²	
3		札幌市	C544遺跡	開発事業	1495m ²	
4		江別市	高砂遺跡	開発事業	254m ²	
5		恵庭市	ユカンボシE11遺跡	開発事業	1707m ²	
6	渡島	函館市	特別史跡五稜郭跡	史跡整備	384m ²	法125条
7		函館市	亀田中野1遺跡	開発事業	1600m ²	
8		松前町	史跡松前氏城跡福山城跡	史跡整備	94m ²	法125条
9		松前町	神明石切り場跡	詳細分布	90m ²	
10		松前町	バッコ沢牢屋跡遺跡	詳細分布	34m ²	
11		松前町	日枝社通遺跡	詳細分布	41m ²	
12		松前町	福山城	詳細分布	5m ²	
13		森町	鷲ノ木遺跡	詳細分布	695m ²	
14	檜山	上ノ国町	史跡上之国勝山館跡	史跡整備	700m ²	法125条
15		上ノ国町	上ノ国市街地遺跡	開発事業	290m ²	
16		厚沢部町	史跡松前氏城跡館城跡	史跡整備	1138m ²	法125条
		厚沢部町	松前氏城跡館城跡	詳細分布	260m ²	
17	宗谷	枝幸町	目梨泊遺跡	学術研究	30m ²	
18	オホーツク	美幌町	豊岡3遺跡	開発事業	27m ²	試掘調査
19		美幌町	豊岡4遺跡	開発事業	91m ²	試掘調査
20		斜里町	朱円25遺跡	開発事業	330m ²	
21		斜里町	峰浜海岸1遺跡	開発事業	480m ²	
22		斜里町	ポンシュマトカリペツ1遺跡	開発事業	690m ²	
23		斜里町	峰浜8線遺跡	開発事業	945m ²	
24		斜里町	峰浜8線遺跡	開発事業	2875m ²	
25		斜里町	チャシコツ岬下B遺跡	開発事業	55m ²	
26	胆振	苫小牧市	(柏原地区所在遺跡)	詳細分布	2052m ²	
27		苫小牧市	植苗12遺跡	開発事業	6260m ²	工事立会
28		伊達市	北黄金2遺跡	詳細分布	95m ²	
29		洞爺湖町	高砂遺跡・入江遺跡・入江3遺跡	詳細分布	156m ²	
30		洞爺湖町	高砂遺跡	開発事業	682m ²	
31		厚真町	オニキシベ5遺跡	開発事業	2283m ²	
32		厚真町	フチャラセナイ遺跡	開発事業	3470m ²	
33		厚真町	豊沢6遺跡	開発事業	1085m ²	
34		厚真町	東和3遺跡	開発事業	646m ²	
35		厚真町	ライカルマイ遺跡	開発事業	2400m ²	
36	日高	日高町	ポロペチリ遺跡	開発事業	3000m ²	
37	釧路	標茶町	エカシベカンベ遺跡第2地点	詳細分布	11m ²	
38		標茶町	ウライヤ遺跡越善地点	開発事業	55m ²	
39	根室	根室市	関江谷1竪穴群	詳細分布	20m ²	
40		標津町	史跡標津遺跡群伊茶仁カリカリウス遺跡	史跡整備	176m ²	法125条

(2) 財団法人北海道埋蔵文化財センターの発掘調査一覧

市町村名	遺跡名
松前町	福山城下町遺跡
福島町	館崎遺跡
木古内町	木古内遺跡 木古内2遺跡 大平遺跡 大平4遺跡 蛇内2遺跡
北斗市	茂辺地4遺跡 押上1遺跡
森町	森川6遺跡
富良野市	中五区2遺跡 中五区3遺跡
下川町	北町J遺跡
苫小牧市	美沢16遺跡
根室市	トーサムポロ湖周辺竪穴群

詳しくは 財団法人北海道埋蔵文化財センター へお問い合わせください。

(3) 大学などの発掘調査一覧

市町村名	遺跡名	発掘機関(担当)	調査期間	面積(m ²)
札幌市	K39遺跡(付属図書館東防火水槽地点)	北海道大学埋蔵文化財調査室 (高倉純・守屋豊人ほか)	4/16~5/18	54
	K39遺跡(先端バイオセンター地点)		4/16~8/13	2,406
	K39遺跡(付属図書館本館増築地点)		4/16~6/30	961
	K39遺跡(付属図書館本館東周辺道路地点)		5/17~7/12	537
	K435遺跡(国際交流会館外構地点)		7/1~9/3	604
北斗市	矢不來館跡	関根達人	7/30~8/14	126
倶知安町	峠下遺跡	札幌国際大学(臼杵勲・坂梨夏代)	9/6~9/13	74
北見市	大島2(TK-11)遺跡	東京大学大学院(熊木俊朗)	8/21~9/13	110
	吉井沢遺跡	佐藤宏之	9/23~10/12	64
斜里町	チャシコツ岬下B遺跡	北海道大学大学院(加藤博文)	8/21~8/31	35
	以久科海岸北遺跡	北海道大学大学院(加藤博文・松田功)	9/21~9/30	36
置戸町	所山遺跡	鶴丸俊明	8/17~8/21	8
上士幌町	嶋木遺跡	首都大学東京(山田昌久)	8/15~9/15	200
大樹町	浜大樹2遺跡	深澤百合子	8/20~8/30	26
標津町	伊茶仁ふ化場第1 竪穴群遺跡	千葉大学(柳澤清一・岡本東三)	9/8~9/24	161

詳しくは 各大学などへお問い合わせください。遺跡の位置などは 北の遺跡案内 をご覧ください。

札幌市 K518遺跡 (掲載番号 A-01-518)

調査理由：開発事業（学校）
調査地：札幌市北区北25条西11丁目22-119
調査主体：札幌市教育委員会（札幌市埋蔵文化財センター）
調査期間：平成22年5月7日～7月30日
調査面積：6,375 m²

調査の概要

K518遺跡は、札幌市営地下鉄南北線北24条駅から西へ約1km、北海道札幌北高等学校の敷地内に位置しています。付近には、かつて市内の湧水池を水源とする河川があり、遺跡はこの河川の両岸に立地しています。現在の遺跡付近の標高は約10.5mです。

平成14年から本発掘調査が継続して行われ、これまでの調査で縄文時代・続縄文時代・擦文時代・アイヌ文化期の遺構や遺物が見つかっています。9カ年計画の最終年度にあたる本年は、敷地内の北西側と東側の2カ所を調査しました。2カ所とも河川右岸の自然堤防に位置しており、今回の調査では続縄文時代や擦文時代の遺構や遺物が見つかりました。

続縄文時代では、北西調査区より火を焚いた炉跡が北東方向に5基と北西方向に2基、それぞれ並んで見つかりました。炉跡は互いに重複していないため、同時期に存在していた可能性があります。遺物は続縄文時代後期（後北C₂-D式期）の土器や石器が出土しています。これまでこの遺跡で見つかった続縄文時代の主な遺構は、竪穴住居跡1軒、炉跡38基等があり、いずれも遺跡の西側で見つかっています。



続縄文時代炉跡検出状況



擦文時代竪穴住居跡出土高坏

擦文時代では、北西調査区より擦文時代前期の竪穴住居跡が2軒発見されたほか、調査区の北側から埋没河川跡が確認されました。竪穴住居跡の大きさは、約5×5mと約5×4mで、ともに隅丸方形の形をしていたと考えられます。2軒とも竪穴住居跡の南壁からカ

マドが見つかっています。また、2軒とも堆積土に炭化材や炭化物が広がっていたことから、上屋が焼け落ちた可能性があります。遺物には擦文土器や礫があり、擦文時代前期のものとして市内では出土例の少ない高坏なども竪穴住居跡から出土しています。この遺跡のこれまでの調査で見つかった擦文時代の竪穴住居跡は、全部で6軒です。

なお、平成20～22年度の発掘調査の成果については、平成22年度末に発掘調査報告書として刊行する予定です。

この遺跡についてのお問い合わせ、札幌市の遺跡をもっと知りたい方は

札幌市埋蔵文化財センター まで

所在地：札幌市中央区南22条西13丁目 ☎ 011-512-5430

開館時間：8:45～17:15

閉館日：国民の祝日・振替休日・年末年始

(ただし、5月3～5日、11月3日は開館)

さつぽろし えいち いせき
札幌市 H529遺跡 (掲載番号 A-01-529)

調査理由：開発事業（宅地造成）

調査地：札幌市東区北49条東5丁目829-139、832-2

調査主体：札幌市教育委員会（札幌市埋蔵文化財センター）

調査期間：平成22年5月7日～7月20日

調査面積：1,530 m²

調査の概要

H529遺跡は、JR学園都市線太平駅から南へ約400mの住宅地内に位置しています。現在の遺跡付近の標高は、およそ5mです。明治時代に描かれた地図によると、かつて遺跡のそばを川が流れていたことがわかっています。今回の調査では、擦文時代の土器や、擦文時代以降の各種遺構・遺物、埋没河川跡が発見されています。

擦文時代以降の文化層は上と下に分かれて2層発見されました。上の層からは建物跡が1棟発見されました。長軸約4m、短軸約1.5mの長方形をした6本柱の構造と考えられます。また、その近くで斜めに掘り込まれた柱穴が1基発見されており、建物跡と関係する柱が建てられていた可能性があります。上の層で発見されたその他の遺構には、6基の土坑があります。

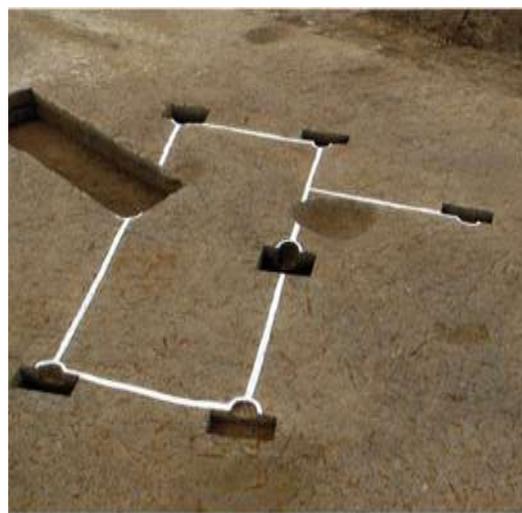
下の層からは炉跡と100基近くの柱穴が発見されました。炉跡には灰が残っておらず、また被熱面がでこぼこしていたことから、灰の掻き出しが行われたと考えられます。柱穴は炉跡周辺に密集していましたが、現状ではその並び方に規則性は見出せません。

埋没河川跡は遺跡の北側で発見されており、そこから柱材や船の部材をはじめとする木製品、鉄製品が出土しました。この埋没河川跡は建物跡や炉跡の時期より新しいことがわかっています。

なお、発掘調査の成果については、平成23年度末に発掘調査報告書として刊行する予定です。



H529遺跡位置図



建物跡検出状況

この遺跡についてのお問い合わせ、札幌市の遺跡をもっと知りたい方は
札幌市埋蔵文化財センター まで

所在地：札幌市中央区南 22 条西 13 丁目 ☎ 011-512-5430

開館時間：8:45～17:15

閉館日：国民の祝日・振替休日・年末年始

(ただし、5月3～5日、11月3日は開館)

さっぽろし しー いせき
札幌市 C544遺跡 (掲載番号 A-01-544)

調査理由：開発事業（清掃関連施設の解体）
調査地：札幌市中央区北4条西18丁目
調査主体：札幌市教育委員会（札幌市埋蔵文化財センター）
調査期間：平成22年7月1日～10月29日
調査面積：1,495 m²

調査の概要

C544遺跡は、札幌市営地下鉄東西線西18丁目駅から北に約600mのところに位置しています。地形的には、豊平川によって運ばれた土や砂を起源としてつくられた札幌扇状地の扇端部にあります。現在の標高は、およそ15.5mです。

発掘調査を行った結果、擦文時代と続縄文時代の遺構、遺物、縄文時代の土器を発見しました。また埋没河川跡も確認することができました。

擦文時代では、調査区の南側において炉跡1基、礫集中1カ所、柱穴などが発見されています。遺物は擦文土器や礫石器が発見されています。

続縄文時代では、土坑47基、炉跡17基、柱穴などの遺構が埋没河川跡に沿って集中して発見されました。土坑は大小さまざまなものがあり、大きなものだと直径が約1.8m、深さが約50cmです。このような大きな土坑の中からは土器、石器の破片や20～30cmほどの礫が出土しています。直径が20～30cmほどの小さな土坑には黒曜石の原石がまとまった状態で発見されたものもあり、このような出土例は珍しく、当時の黒曜石の利用法を考えるうえで貴重な発見といえます。土坑のまわりの炉跡からは動物の骨片や土器、石器の破片も発見されています。土器は続縄文時代後期（北大式期）のものが中心で、石器は搔器、石鏃などが発見されています。その他の遺物として土玉が発見されています。

縄文時代では、土器が見つかっており縄文時代後期のものと考えられます。



C544遺跡位置図



続縄文時代土坑配置状況

なお、発掘調査の成果については、平成 23 年度末に発掘調査報告書として刊行する予定です。

この遺跡についてのお問い合わせ、札幌市の遺跡をもっと知りたい方は

札幌市埋蔵文化財センター まで

所在地：札幌市中央区南 22 条西 13 丁目 ☎ 011-512-5430

開館時間：8:45～17:15

閉館日：国民の祝日・振替休日・年末年始

(ただし、5 月 3～5 日、11 月 3 日は開館)

調査理由：開発事業(住宅)

調査地：江別市高砂町 29-15

調査主体：江別市教育委員会

調査期間：平成 22 年 7 月 1 日～7 月 31 日

調査面積：254 m²

調査の概要

高砂遺跡は JR 高砂駅の北側、かつて JR 野幌駅付近を源に石狩川へ注いでいたモシヨッケ川の右岸に広がっています。

平成 22 年度は、遺跡のほぼ中央部、これまでの調査で縄文時代中期の住居跡が数多く発見されているエリアの一部を調査しました。調査の結果、住居跡や住居に類似した遺構 3 軒、墓などの土壇 13 基、落とし穴 3 基、焼土 1 ヶ所のほか、土器や石器などの遺物を発見しました。遺構が作られた時代は、決め手となる土器や石器がほとんど発見されず、特定は難しいのですが、周辺から発見された土器などから縄文時代中期～縄文時代後期初頭ではないかと考えられます。

今回の調査箇所からは、住居跡に重複して墓と思われる大型の遺構が発見されました。遺構の底から上に行くに従って大きく広がり、まるでアサガオの花のような形状をしています。底から 20cm ほど上には赤みがかかった土が堆積しており、ベンガラがまかれていたと考えられます。また、落とし穴が 3 基発見されました。3 基とも溝型で、うち 2 基は 1.5m の間隔でほぼ並行に作られていましたが、残念ながら南西側は調査区外まで伸びており、全体を検出することはできませんでした。今年度の調査箇所は、調査前に住宅が建っていたこともあり、本来遺構や遺物が発見される地層が消失していました。そのため、遺構は削られたものが多く、遺物も比較的少なかったようです。



大型の墓



落とし穴

江別市の遺跡についてのお問い合わせは **江別市郷土資料館** まで

所在地：江別市緑町西1丁目38番地 ☎ 011-385-6466

開館時間：9:30～17:00

閉館日：月曜日（月曜日祝日の場合は火曜日）・年末年始

調査理由：開発事業（下水道・道路）

調査地：恵庭市和光町5丁目22-5地先ほか

調査主体：恵庭市教育委員会

調査期間：平成22年6月1日～10月31日

調査面積：1,707 m²

調査の概要

遺跡は恵庭市街地の南東方向、JR 恵庭駅から千歳線に沿って1.3 kmほど千歳方向に行ったところにあります。この付近はユカンボシ川の右岸地帯で、標高26～27mの低位段丘面です。現在では周辺はほとんど住宅地になっています。発掘調査は住宅街の道路に敷設される雨水管設置工事、及び道路改良工事に伴って実施しました。

調査は、住宅地の生活道路のうち4路線を対象に、幅6mと8mの道路を延長約540mにわたって行いました。調査の結果、縄文時代中期の竪穴住居跡と土坑が検出されたほか、同後期初頭、晩期の土坑、晩期以降とみられる焼土群などが見つかっています。主体は縄文時代中期で、遺物も縄文時代中期を中心に前期～晩期の土器や石器が出土しました。

遺構・遺物のうち特徴的なものでは、縄文中期の円筒上層b～c式に属す大型竪穴住居跡が検出されたことと、そこから出土した矢柄付き石鏃があります。竪穴の全体形は不明ですが、10本の支柱をもち、推定径19×10mほどの大きなもので、床面から炭化した矢柄を伴う有茎石鏃18点以上が一括出土しました。また、竪穴内の土坑から石器製作に関連する黒曜石のチップが多量に検出され、住居内で石鏃などの石器が製作された可能性が認められました。

細い道路だけを対象にした発掘調査ですが、遺跡のほぼ全域で調査を行った結果、この遺跡が縄文時代中期中葉を主体にした集落跡であることがわかりました。なお、次年度以降も近隣で同様の調査を計画しています。今年度の調査報告書は平成23年3月頃刊行予定です。



竪穴住居跡調査風景



一括石鏃と炭化した矢柄

この遺跡についてのお問い合わせ、恵庭市の遺跡をもっと知りたい方は
恵庭市郷土資料館 まで

所在地：恵庭市南島松 157-2 ☎ 0123-37-1288

開館時間：9:30～17:00

閉館日：月曜・月末の金曜日・祝日の翌日・年末年始

電子メール：shiryokan@city.eniwa.hokkaido.jp

はこだてし とくべつしせきごりょうかくあと
函館市 特別史跡五稜郭跡 (登録番号 B-01-76)

調査理由：史跡整備（遺構確認、工事立会）
調査地：函館市五稜郭町・本通1丁目
調査主体：函館市教育委員会
調査期間：平成22年4月5日～11月19日
調査面積：384㎡

位置と環境

特別史跡五稜郭跡は、函館山を要として扇状に広がる函館市街地のほぼ中央、標高15mほどの平坦地に位置しています。この五稜郭跡は、稜堡と呼ばれる5つの突角を有する星形五角形の「西洋式土塁」で、幕末の箱館開港に伴い設置された箱館奉行所の防御施設です。築造当時の郭内には、奉行所庁舎をはじめとして25棟の附属建物や門・板塀・柵・上下水道などの施設が配置され、蝦夷地統治と開港に伴う対外政策の拠点として重要な役割を担っていました。明治維新の際には箱館戦争の舞台ともなり、明治4(1871)年に郭内建物の大半が解体され、現存するのは土蔵の兵糧庫1棟と土塁・石垣・水堀などの地上遺構となっています。

平成17～22年度の6ヵ年計画で文化庁補助の復元整備事業を実施中で、その主となる箱館奉行所庁舎は平成22年夏に完成・公開しています。



特別史跡五稜郭跡



復元された函館奉行所庁舎

調査の概要

附属建物の遺構確認調査は、遺構の平面表示を整備するにあたり、建物跡や塀柵跡の角部分を再確認して整備位置の精度を高めることとしました。建物跡などの規模や位置は過年度までの発掘調査で確認されていたので、各遺構の平面表示の四隅の位置を測量により特定して掘削を行い、遺構を確認しました。そして、遺構の真上に平面表示が整備されるよう位置を決定しました。

遺構の平面表示は、郭内の7つのエリアに所在する18棟の附属建物跡と付随する塀柵跡です。

また、園路の路盤敷設や電気・照明・給排水設備等の設置工事の工事立会を実施し、各種遺構の記録および工事の経路・工法などの修正を行いました。

○小土塁基礎跡 郭内南側の見隠塁の南東側の園路路盤敷設工事の掘削の際、円礫の堆積が帯状に確認されました。古図面の該当箇所小土塁の記載があることから、その基

礎石と想定し、円礫の範囲を記録しました。検出された円礫の集積上に保護砂を敷いてその上に園路路盤を敷設することで遺構の破壊を回避しました。



小土塁基礎跡



上水道施設跡

○**上水道施設跡** 郭内北側の裏門橋に通じる本塁切れ目部分の園路路盤敷設工事の掘削の際、郭外北側から郭内に引いた上水道施設跡の遺構が検出されました。この上水道施設跡の存在は、これまでの発掘調査によりその経路が整備園路に重なることが判明していたことから、遺構検出状況の記録を行った後、遺構上に保護砂を敷いて、その上に園路路盤を敷設することで遺構の破壊を回避しました。

その他の電気・照明・給排水設備等の工事の際にも、掘削により遺構が破壊されないよう、工事立会により遺構の有無を確認しながら工事を進めました。

発掘調査報告書は、平成23年3月に刊行の予定です。

この遺跡についてのお問い合わせは **函館市教育委員会** まで ☎ 0138-21-3456
http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board_of_edu/lifelong_learning/cultural_assets/
または、**箱館奉行所** まで

所在地：函館市五稜郭町44-3 ☎ 0138-51-2864

開館時間：9:00～18:00 [11～3月は～17:00]

閉館日：年末年始

<http://www.hakodate-bugyosho.jp/>

函館市の遺跡をもっと知りたい方は **市立函館博物館** まで

所在地：函館市青柳町17-1 ☎ 0138-23-5480

開館時間：9:00～17:00

閉館日：毎週月曜・年末年始ほか

http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board_of_edu/lifelong_learning/museum/

はこだてし かめだなかの いせき
函館市 亀田中野 1 遺跡 (掲載番号 B-01-319)

調査理由：開発事業（道路）
調査地：函館市亀田中野町 70-1
調査主体：函館市教育委員会
調査実施：特定非営利活動法人 函館市埋蔵文化財事業団
調査期間：平成 22 年 5 月 12 日～10 月 6 日
調査面積：1,600 m²

位置と環境

亀田中野 1 遺跡は、函館市亀田中野町を流れる中野川の左岸に形成された標高 82～91m の丘陵上に位置しています。周辺には、約 2 km 西側に旧石器時代と縄文中期を主体とする桔梗 1～3 遺跡があり、さらに西側には石川 1 遺跡が所在しています。また、亀田平野の東側に発達した丘陵上の桔梗台地一帯には、縄文中期の集落跡で円筒土器の標識遺跡として知られるサイベ沢遺跡や縄文早期から続縄文時代の西桔梗遺跡群が所在しています。



調査区から望む函館市街



2 区平坦部調査状況

調査の概要

発掘調査は、函館新外環状道路（空港道路）工事に伴い実施したものです。調査区は便宜的に 1～3 区に分けて行いました。調査区の現況は畑地で、1 区と 2 区の平坦部がローム層まで耕作による削平を受けていました。

調査の結果、縄文時代中期の竪穴住居跡 2 軒、竪穴状遺構 1 基、土坑 11 基、屋外炉 2 基、焼土 1 ヲ所が見つかりました。竪穴住居跡は 2 区平坦部の東側に位置しています。プラウによる耕作のため、壁はほとんど残っておらず、床面も畝状に一部破壊されています。住居跡の平面形は、2 軒とも約半分が調査区外に広がっているため詳細は不明です。炉はいずれも地床炉です。土坑は、2 区平坦部の東側と、2 区斜面部に集中しています。平面形は、円形および楕円形を呈しています。

遺物は主に、2 区の標高 84～89m の斜面部から出土しています。遺物数は、土器 1,222 点、剥片類 26 点、礫石器類 53 点、総数 1,301 点です。土器は縄文中期中葉のサイベ沢 VII 式が主体で、他に早期・晩期のものが若干見られます。石器はつまみ付ナイフ・石斧・敲

石・凹石・擦石・砥石・石皿などが出土しています。

本遺跡は、低位海岸段丘に形成された同時期の桔梗2遺跡や石川1遺跡などの大規模な集落とは異なり、高位段丘につくられた比較的小規模な集落であったと推測されます。また、集落の主体部は、本調査区のさらに北東方向に広がるものと考えられます。

発掘調査報告書は、平成23年3月に刊行の予定です。

この遺跡についてのお問い合わせは **函館市教育委員会** まで ☎ 0138-21-3472
http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board_of_edu/lifelong_learning/cultural_assets/

函館市の遺跡をもっと知りたい方は **市立函館博物館** まで

所在地：函館市青柳町17-1 ☎ 0138-23-5480

開館時間：9:00～17:00

閉館日：毎週月曜・年末年始ほか

http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board_of_edu/lifelong_learning/museum/

調査理由：史跡整備

調査地：松前町字松城（堀廻り地区：松城字 146、光善寺庭園：字松城 303）

調査主体：松前町教育委員会

調査期間：平成 22 年 8 月 2 日～10 月 29 日

調査面積：94 m²（堀廻り地区：47 m²、光善寺庭園：47 m²）

調査の概要

福山城は、前身である福山館に三ノ丸や郭を増設するなど、大規模に改修し、安政元年（1854）に完成しました。福山城の特色は、外国船対策（海防）を目的とし、城内三ノ丸に 7 基の台場（砲台）を備えているものとしては、我が国唯一の日本式城郭です。明治維新の後、明治 8 年（1875）までに北海道開拓使によって取り壊されましたが、天守とその周辺の建物は残されました。これらの遺構は一時国宝となりましたが、昭和 24 年（1949）に天守を焼失し、現在は「本丸御門」が重要文化財として保存されています。

史跡整備事業は、昭和 50 年に第一次保存管理計画を、平成 8 年度には第二次保存管理計画を策定し、平成 11 年度から平成 14 年度にかけて文化庁の「ふるさと歴史の広場」事業により、二ノ丸・三ノ丸南東部を集中的に整備しました。平成 19 年度からは本丸西側の「堀廻り地区」の調査を行い、旧地形が明らかとなりました。今年度は「堀廻り地区」と、寺町地区の西端に位置する「光善寺庭園」の調査を行いました。



本丸土居石垣



光善寺庭園の池

「堀廻り地区」では、本丸土居石垣の南端部を検出しました。遺物は、縄文土器・近世陶磁器・瓦・古銭・近現代のガラスやタイルなどが出土しています。「光善寺庭園」では、池底までの深さが現在の地表から 170 cm 前後あることが判明しました。土層堆積や出土し

た陶磁器などから推測すると、幕末～明治初期にかけて、火災にあった光善寺を再建するため、従来のを掘り込んで壁土を採取し、そこへ火災による残滓を埋めた後、現在みられる姿になったと考えられます。報告書は、平成 23 年 3 月に刊行予定です。

来年度も引き続き、本丸土居石垣の検出に努めるとともに、庭園遺構の全容解明に向けた調査を行う予定です。

この遺跡についてのお問い合わせは

松前町教育委員会 (☎ 0139-42-3060) または

松前町発掘調査事務所 (☎ 0139-42-5330) まで

調査理由：詳細分布調査

調査地：松前町字神明 194 ほか

調査主体：松前町教育委員会

調査期間：平成 22 年 5 月 7 日～7 月 30 日

調査面積：90 m²

調査の概要

「神明石切り場跡」は、主に福山城築城のために石垣石を切り出した採掘跡です。平成 17 年度、従来から史跡整備のための石垣石採掘を行っていた地点の周辺の土地を町が購入し、新採掘場所として採掘を開始したところ、石垣が発見されました。担当者が現地を確認すると、それは幕末期の石垣遺構で、周囲を踏査したところ、石の切り出し遺構も発見されたため「神明石切り場跡」として埋蔵文化財包蔵地に登載しました。

松前段丘の上位面、標高約 60～120mに露頭する緑色凝灰岩（グリーンタフ）が石垣石として利用されたとみられ、過去 4 年の調査で、江戸時代末期のノミ敲击痕や、矢穴痕が確認されており、「溝掘り→矢道掘り→矢口掘り→矢穴掘り」という採掘作業工程が判るものもありました。さらに、母岩に直径 3～5 cmの穴をドリルでボーリングし、その底部を火薬で破碎するという近代以降の採掘痕も確認しています。

また、石切り場に通じる沢を下った出口付近には、石垣で囲まれた平場があり、幕末～明治の陶磁器や金属製品、古銭などが出土しました。明確な建物跡は検出されなかったものの、この平場には番屋が存在したものと思われます。

今年度の調査では、切り石を運び出した「石曳き道」の調査を行いました。いずれのトレンチでも、表土直下にグリーンタフが厚く堆積しており、腐植土をほとんど含みません。



石曳き道と推定される地形



TP-9 近景

特に TP-9 地点は明らかに溝となっていることから「石曳き道」である可能性が高いとみ

られます。報告書は平成 23 年 3 月に刊行予定です。

「神明石切り場跡」は、道内唯一の江戸時代末期の石切り場跡であり、当時の採掘技術を知る上でも貴重な遺跡と言えます。来年度以降、これまでの調査成果を踏まえ、保存すべき区域を定め、城郭関連施設として史跡『松前氏城跡福山城跡』に追加指定するとともに、見学ルートなどの整備も行う予定です。

この遺跡についてのお問い合わせは

松前町教育委員会 (☎ 0139-42-3060) または

松前町発掘調査事務所 (☎ 0139-42-5330) まで

調査理由：詳細分布調査

調査地：松前町字神明 69 ほか

調査主体：松前町教育委員会

調査期間：平成 22 年 5 月 7 日～7 月 30 日

調査面積：34 m²

調査の概要

バッコ沢牢屋跡遺跡は、『史跡 大館跡』の東側を流れるバッコ沢沿いに位置します。平成 17 年、大雨による水害が発生したことから、氾濫源となったバッコ沢沿いに砂防ダムの建設計画が持ち上がりました。砂防ダムは、大館跡を形成する丘陵の法面にかかるもので、当該地点の水没は免れず、大館跡及び周辺環境に致命的な影響を及ぼすことが予想されたため、詳細分布調査を行いました。

バッコ沢は、ロシア軍人ゴローニンらを幽閉した場所として一般に知られています。ゴローニンは、ロシア軍艦ディアナ号艦長でしたが、文化 8 年 (1811) に国後島で捕えられ、松前へと連行されます。最初は、元松前藩重臣宅の空家を改装した牢獄で捕虜として抑留されますが、翌年、ゴローニンら 6 名は、ムール少尉とアレキセイ通訳を残して脱走、しばらくして木ノ子村 (上ノ国町) で捕縛されました。その後、大松前川支流のバッコ沢にある牢屋へと収容されました。

昨年度の調査では、土塁や、建物礎石などの遺構を確認しています。今年度は、土塁南側で、建物礎石を 10 基検出しました (うち 4 基は昨年度確認済み)。礎石の柱間は心々で 6 尺 (約 180 cm) です。土塁は裾幅 4 丈 (約 12m)、最大比高差 1 丈 (約 3m) で、土塁の北側には浅い溝があり、さらに北側では敷石様遺構を検出しました。



建物礎石検出状況



敷石様遺構

ゴローニンの手記によれば「・・・城から一ヴェルスタ [約一キロ] 程の距離にある獄舎へ私達は連れて行かれた。(中略) 町の獄舎は切り立った崖の真下に位置し、二重の柵が取り囲み、土塁が防御壁として積まれていた。」(S. V. ゴローニン, 1824 斉藤智之訳, 2006 『日

本幽囚記Ⅱ』p44～45)とあり、福山城(当時は福山館)からの距離感、大館跡と日枝社通遺跡という二つの台地に挟まれた地点、土塁というように、立地条件がゴローニンの記述と一致します。なお、今回の調査では、二重の柵に相当する遺構は検出されませんでした。

遺物は19世紀中葉の陶磁器類が多く、なかには中世、松前大館(徳山館)の時期に帰属する中国産青磁もみられました。報告書は平成23年3月に刊行予定です。

この遺跡についてのお問い合わせは

松前町教育委員会 (☎ 0139-42-3060) または

松前町発掘調査事務所 (☎ 0139-42-5330) まで

調査理由：詳細分布調査

調査地：松前町字神明 71 ほか

調査主体：松前町教育委員会

調査期間：平成 22 年 5 月 7 日～7 月 30 日

調査面積：41 m²

調査の概要

日枝社通遺跡は、大松前川とその支流（バッコ沢）に挟まれた舌状台地の標高 25～75m に位置します。「日枝社」は、その古称を「山王権現」といい、『福山秘府』によれば、山王権現は「大永三未年（1523）地蔵山之麓造営」とあり、「別當 阿吽寺」と記されており、その縁起は中世に遡ることができます。宝暦年間（1750 年代）に描かれた『松前屏風』においては、徳山大神宮の裏、地蔵山の登り口に描かれた社殿がこれに該当すると考えられます。社殿の隣にはシンボルツリーとして赤松が描かれており、当時のものではないかもしれませんが、現在でも赤松が植わっています。さらに、大正 7 年の地籍図には「日枝社通」という小字名がみられることから、付近に山王権現社（日枝社）があった可能性が高いと考えられます。

現地を踏査したところ、幕末に構築されたとみられるグリーンタフの石垣や、土塁などの遺構が確認できました。また、道路の両脇に成された盛り土に虎口が切られ、棚田状に整地された平坦面が広がっているといった、中世的な遺構もみられます。しかし、日枝社が存在した可能性が高いと考えていた赤松周辺では、建物礎石は確認できず、出土遺物についても縄文土器や石器、18 世紀後半～19 世紀中葉の陶磁器・古銭・ガラス瓶・硯などであり、中世遺物は出土しませんでした。報告書は平成 23 年 3 月に刊行予定です。



グリーンタフ石垣



赤松周辺

この遺跡についてのお問い合わせは

松前町教育委員会 （ ☎ 0139-42-3060 ） または
松前町発掘調査事務所 （ ☎ 0139-42-5330 ） まで

調査理由：詳細分布調査

調査地：松前町字松城

調査主体：松前町教育委員会

調査期間：平成 21 年 5 月 7 日～7 月 30 日

調査面積：5 m²

調査の概要

天神坂は、福山城の南東部にあり、地山の岩盤を切り出して造られた坂で、「切石坂」とも呼ばれていました。基本構想図と思われる『松前城』や、基本設計図と思われる『福山城見分図』などの絵図では、石垣や石段が描かれていませんが、実施設計図と思われる『線図』（仮称）では、石垣が描かれています。また、慶応 3 年（1867）に撮影された『福山城全景』（市立函館博物館蔵）では、柵（手摺）とともに、坂の石垣上端が映し出されていることから、築城時に石垣が生まれ、同時に石段や柵（手摺）も設置されたと考えられます。平成 15 年度の調査では、天神坂門から続く 13 段の石段と開渠が確認されており、今年度は、それに続く石段の確認調査を行いました。



調査区近景

石段に使用されている石材は、在地産の緑色凝灰岩（グリーンタフ）で、路盤のアスファルト舗装を剥がして調査を行った結果、平成 15 年度に調査した箇所と同じく、石段は地山をわずかに掘り込んで据えられていることが判明しました。

今年度調査した箇所は、史跡『松前氏城跡福山城跡』に追加指定するとともに、石段の整備も行う予定です。

この遺跡についてのお問い合わせは

松前町教育委員会 （ ☎ 0139-42-3060 ） または
松前町発掘調査事務所 （ ☎ 0139-42-5330 ） まで

調査理由：詳細分布調査

調査地：茅部郡森町字鷺ノ木町 499-1 ほか

調査主体：森町教育委員会

調査期間：平成 22 年 6 月 1 日～10 月 5 日

調査面積：695 m²

調査の概要

鷺ノ木遺跡は、森町市街地から西に 4 km、海岸線から内陸に 1 km ほど入った桂川支流の上毛無沢川と下毛無沢川に挟まれた河岸段丘上に位置しています。平成 15 年の調査で縄文時代後期前半の環状列石（ストーンサークル）と竪穴墓域が発見され、平成 18 年に国の史跡に指定されました。指定に伴い、標高 43～47m の低位段丘上にある旧鷺ノ木 3 遺跡と標高 67～73m の高位段丘上にある旧鷺ノ木 5 遺跡を統合して「鷺ノ木遺跡」となりました。指定後、遺跡範囲内容確認のための調査を継続して行っています。

本年は環状列石の東側、標高 40m 前後の段丘上に南北に広がる緩やかな斜面地を対象に環状列石に関わる遺構・遺物と旧地形の確認を目的として調査を行いました。調査区は、段丘の主に北側に 4～10m 四方の試掘坑 18 ヶ所を設定しました。

調査の結果、遺構では土坑 1 基が発見されました。土坑に土器などの遺物はなく、周囲に攪乱も見られ、時期や用途は不明です。遺物は調査範囲全面から出土しており、縄文時代前期・中期・後期や続縄文時代の土器・石器が約 2,000 点出土しています。

今回の調査では、環状列石に係る縄文時代後期の土器は比較的少なく、これまでの調査成果も考慮すると、東側は環状列石から離れるにつれて遺構・遺物が少なくなっている傾向が認められました。地形については、現在確認される地形とは、平坦面や傾斜面の状態が異なる部分が見られました。当時の植生なども考慮すれば、現在とは違った環境や景観が広がっていた可能性があります。報告書は、平成 22 年度末に刊行する予定です。



調査区遠景



土坑の断面

この遺跡についてのお問い合わせは

森町教育委員会 (☎ 01374-2-2186) まで

調査理由：史跡整備

調査地：檜山郡上ノ国町字勝山 410 ほか

調査主体：上ノ国町教育委員会

調査期間：平成 22 年 4 月 12 日～12 月 10 日

調査面積：700 m²



勝山館跡の整備状況

調査の概要

勝山館跡は、天ノ川河口左岸の丘陵に位置し、松前氏の祖とされる武田信広^{たけだのぶひろ}によって築かれた 1470 年～1600 年頃の室町～安土桃山時代に機能した山城^{やまじろ}とされています。

勝山館跡では、昭和 54 年度から史跡整備に伴う発掘調査が現在まで継続的に実施され、多量にみつかるとされる遺構・遺物の中に、アイヌ墓やアイヌが使用した骨角器^{ほつかくぐさ}などが確認されるため、館に和人とアイ

ヌが混住していたことが指摘されています。

今年度は勝山館の旧道及び物見^{ものみ}跡を確認する目的で、調査区を国道 228 号線脇の勝山館跡散策路付近の標高 15～30m の人工的に造成されたと思われる 4 段の平坦面及びその周辺の旧道と思われる溝状の窪みに計 9 ヶ所設定しています。

発掘調査では、勝山館の旧道、掘立柱建物跡、土壇（土葬墓）、溝、柱穴の他、館廃絶後に相当する江戸時代の旧道、礎石建物跡、掘立柱建物跡の遺構が確認されています。遺物は、中・近世陶磁器、鉄製品、銅製品、銅銭、石製品などが 1,000 点程みつかっています。

主な遺構としては、平坦面の 2 段目からみつかった勝山館の掘立柱建物跡が挙げられます。その建物跡は、梁間 1 間・桁行 6 間（172×574 cm、9.9 m²）、柱間寸法 92～112 cm（3.0～3.7 尺）の規模で、細長い平面形が想像されます。また、その性格は過年度の発掘調査で物見とされる建物跡と平面形や立地が類似することから、この建物跡も物見としての可能性が考えられます。



物見と推測される掘立柱建物跡

さらに、構造については^{まじき}棧敷状の高床が付いた見張り台なのか、もしくは^{きりば}切妻の屋根が付属する見張り小屋のようなものか、類例を探して検討していきたいと思ひます。

この発掘調査の報告書は、平成 23 年 3 月に刊行される予定です。

上ノ国町の遺跡や文化財についてのお問い合わせは

上ノ国町教育委員会事務局 まで

☎ 10139-55-2230 **Fax** 0139-55-1044

ホームページ <http://www.town.kaminokuni.lg.jp/>

調査理由：開発事業（下水道）

調査地：檜山郡上ノ国町字上ノ国 213-2～238-2

調査主体：上ノ国町教育委員会

調査期間：平成 22 年 5 月 31 日～6 月 25 日

調査面積：290 m²

調査の概要

本遺跡は北に大澗湾、東に天ノ川、南に国指定史跡の勝山館跡を望む海浜部に立地し、上ノ国町字上ノ国地区の住宅地の6割程をその遺跡範囲としています。平成7年度以降、住宅建替え時の調査や分布調査を実施し、縄文～近世末葉までの遺構や遺物が多数出土しています。

発掘調査は、下水道工事に伴うもので、国道228号線の山側歩道部分に延長290m、幅0.6～0.8m、深さ0.75～1.2mの規模で実施されました。

出土遺物は縄文後期（涌元式～ホッケマ式）・晩期、続縄文、^{きつもん}擦文時代の土器、15～16世紀代の中国産青磁・白磁・染付、国産の瀬戸美濃・越前等、16世紀末～17世紀初頭の中国産染付、国産の唐津肥前系陶磁器、その他曲物底、箸、漆器等の木製品、釘、^{かすがい}銚、^{こづみ}小柄、^{とうす}刀子等の金属製品、銅製品、銭等約2,000点が出土しています。遺構は、近世初頭の柱穴等が検出されています。



江戸時代初期の肥前系磁器



上ノ国市街地遺跡 位置図

特に中世の時代では、15世紀代中葉～後半の遺物が出土しており、勝山館以前の花沢館（15世紀中葉）があった時期に集落が作られていたことが分かりました。これらのことから、本遺跡は周辺の上之国館（花沢館、洲崎館、勝山館）と密接な繋がりを持ち、中世の当地域における生活の様子を探る上で貴重な遺跡といえます。

この発掘調査の報告書は、平成23年3月に刊行される予定です。

上ノ国町の遺跡や文化財についてのお問い合わせは

上ノ国町教育委員会事務局 まで

☎ 10139-55-2230 **Fax** 0139-55-1044

ホームページ <http://www.town.kaminokuni.lg.jp/>

調査理由：史跡整備（史跡内容確認）

調査地：檜山郡厚沢部町字城丘 179-1・2、182-1・2 ほか

調査主体：厚沢部町教育委員会

調査期間：平成 22 年 5 月 11 日～ 8 月 30 日（史跡内）

平成 22 年 11 月 4 日～12 月 10 日（史跡外）

調査面積：1,398 m²

調査の概要

館城跡は、明治元年（1868）に松前藩によって築城された城郭で、同年 11 月 15 日、戊辰箱館戦争による旧幕府軍の攻撃を受け、落城しました。以後、再建されることなく現在に至ります。

館城跡では、城の外郭線を構成する堀や柵列の調査を中心に、昭和 63 年～平成 2 年、平成 17 年～21 年の計 8 次にわたる発掘調査が実施されてきました。これらの調査によって、館城跡東側、南側、西側の堀・柵列の所在が明らかになっています。

館城跡の外郭線は、西辺の堀・柵列についてはその北半が、北辺については全くその所在が確認されていません。今年度は、西辺の堀・柵列の北半及び北辺の堀・柵列を確認することを目的として、調査区を設定しました。

館城跡史跡外西側に位置する町道敷地内に調査区を設定したところ、堀が北側に屈曲し、町道に沿って北へ延びることを確認しました。また、堀の内側にもうけられた柵列の痕跡



町道敷地内で検出された堀

も、町道敷地内で確認することができ、館城跡西側の堀・柵列については、現在の町道とほぼ並行していることを確かめました。

館城跡北側では、平成 21 年度に検出した柵列の西側延長を確認するために調査区を設定しましたが、ここでは、堀・柵列ともに確認することができませんでした。

この調査の発掘調査報告書は、平成 23 年 3 月に刊行予定です。

この遺跡についてのお問い合わせは

厚沢部町教育委員会事務局社会教育係（担当：石井）まで

電話：0139-64-3311（内線 80）

電子メール：kyoui-syakai@town.assabu.lg.jp

この遺跡をもっと知りたい方は

厚沢部町郷土資料館 まで

所在地：檜山郡厚沢部町新町 234-1

開館時間：9:00～17:00（月曜・祝日休館）

電話：0139-64-3311（内線 80）

電子メール：kyoui-syakai@town.assabu.lg.jp

調査理由：学術研究

調査地：枝幸郡枝幸町目梨泊 5377

調査主体：枝幸町教育委員会

調査期間：平成 22 年 8 月 17 日～8 月 27 日

調査面積：30 m²

調査の概要

目梨泊遺跡は、国指定名勝ピリカノカの一つ「神威岬」を望むオホーツク海に面した段丘上に位置しています。目梨泊遺跡はオホーツク文化を代表する遺跡の一つであり、出土品の一部は平成 12 年に国の重要文化財に指定されています。

枝幸町教育委員会では札幌大学文化学部の川名広文ゼミと共同して目梨泊遺跡の集落構造を明らかにするための学術調査を進めています。遺跡は大きく 5 つの

段丘面に分かれています。今回調査を行ったのは最も南に位置する第 V 段丘の海側です。この地点では平成 21 年から調査を開始しており、今回の調査はその 2 カ年目にあたります。

調査の結果、オホーツク人が日々の暮らしを送っていた「生活面」が検出され、たくさんのオホーツク式土器や焼けた骨、骨角器、黒曜石の剥片や石鏃、鉄製刀子が見つかっています。鉄製刀子は、柄が刃の方にわん曲した「曲手刀子」となっており、大陸からもたらされたものと考えられます。また、生活面の一部には幅 10 cm ほどの溝が 5～6 本並んで掘られており、その上面が熱を受けて赤くなっています。今回の調査では上面を確認しただけですが、何らかの焼成遺構かもしれません。

目梨泊遺跡はオホーツク文化最大級の集落遺跡であり、大陸や本州との交易拠点であったことが知られています。調査は今後も継続予定ですので、集落の構造や当時の交易の様相がさらに明らかになるかもしれません。報告書は平成 24 年度の調査完了をまって刊行したいと考えております。



調査区の状況



熱を受けた骨角器素材（鯨骨）

目梨泊遺跡をもっと知りたい方は **オホーツクミュージアムえさし** まで
所在地：枝幸町三笠町 1614-1 ☎ 0163-62-1231
休館日：毎週月曜日・月末の火曜日・祝日

びほろちょう とよおか いせき
美幌町 豊岡3遺跡 (登録番号 I-06-22)

調査理由：開発事業（農業関連・暗渠排水）

調査地：美幌町字豊岡 427-5・6

調査主体：美幌町教育委員会

調査期間：平成22年8月21日～8月24日

調査面積：27 m²

調査の概要

豊岡3遺跡は美幌町北西部、標高125m程の丘陵上に立地しています。平成19年に道営畑総事業に伴って、試掘調査が行われました。

今年度は、道営畑総事業の暗渠排水工事に伴い、遺跡の範囲を確認する目的で試掘調査を実施しました。調査区は平成19年の調査区の西側に位置しています。

調査の結果、調査区中央付近の腐植土層から縄文時代のものと考えられる黒曜石の石核が出土しました。遺跡は畑地として利用されていることから耕作によって大部分が攪乱された状態でしたが、部分的に暗褐色の腐植土層が確認されました。過去の調査では丘陵上の畑の全域から遺物が確認されていることから、遺跡が広範囲にわたり広がっているものと考えられます。

報告書は平成23年3月に刊行の予定です。



作業風景



出土遺物

この遺跡についてのお問い合わせ、美幌町の遺跡をもっと知りたい方は
美幌博物館 まで 所在地：美幌町字美禽 253-4 ☎ 0152-72-2160

びほろちょう とよおか いせき
美幌町 豊岡4遺跡 (登録番号 I-06-23)

調査理由：開発事業（農業関連・暗渠排水）

調査地：美幌町字豊岡 422-1・4、426-1・2・7・11

調査主体：美幌町教育委員会

調査期間：平成22年10月1日～10月9日

調査面積：91 m²

調査の概要

豊岡4遺跡は美幌町北西部、標高125m程の丘陵上に立地しています。昭和63年（1988）に土地区画整理工事に伴って、発掘調査が行われています。

今年度は、道営畑総事業の暗渠排水工事に伴い、遺跡の範囲を確認する目的で試掘調査を実施しました。調査区は昭和63年の調査区西側に位置しています。

調査の結果、調査区全域の耕作土中から縄文時代のものと考えられる黒曜石の石鏃や石槍等の石器が出土しました。遺跡は畑地として利用されていることから耕作によって大部分が攪乱された状態でしたが、調査区西側では暗褐色の腐植土層を確認しました。過去の調査から丘陵上の畑の全域から遺物が確認されていることから、遺跡が広範囲にわたり広がっているものと考えられます。

報告書は平成23年3月に刊行の予定です。



作業風景



出土遺物

この遺跡についてのお問い合わせ、美幌町の遺跡をもっと知りたい方は
美幌博物館 まで 所在地：美幌町字美禽 253-4 ☎ 0152-72-2160

しやりちよう しゆえん いせき
斜里町 朱円25遺跡 (登録番号 I-08-241)

調査理由：開発事業（農業関連・用水路）

調査地：斜里郡斜里町字朱円 25-1・2

調査主体：斜里町教育委員会

調査期間：平成 22 年 5 月 1 日～5 月 15 日

調査面積：330 m²

調査の概要

朱円 25 遺跡は、北緯 43° 54' 14"、東経 144° 45' 55" 付近、一般国道 334 号線沿いの緩やかな斜面上に立地します。調査区は丘陵地上に位置していたため周辺よりも比較的高く、遺物包含層の大部分は営農活動により削平されていきました。遺構は、土坑 6 基を検出しました。今年度の調査で出土した土器が縄文時代中期のもののみであることから、これらの遺構も縄文時代中期のものと考えられます。土器は、縄文中期のトコロ 6 類土器と北筒Ⅲ式土器がほとんどで、遺物の出土点数は土器 19 点、石器 24 点、その他 11 点の合計 54 点でした。



発掘調査風景



調査区完掘状況

この遺跡についてのお問い合わせは

斜里町立知床博物館

☎ 0152-23-1256

ホームページ <http://shir-etok.myftp.org/>

斜里町埋蔵文化財センター

☎ 0152-23-2017

ホームページ <http://www13.ocn.ne.jp/~siretoko/>

しやりちよう みねはまかいがん いせき
斜里町 峰浜海岸 1 遺跡 (登載番号 I-08-10)

調査理由：開発事業（農業関連・用水路）

調査地：斜里郡斜里町字峰浜 41-1

調査主体：斜里町教育委員会

調査期間：平成 22 年 5 月 18 日～6 月 15 日

調査面積：480 m²

調査の概要

峰浜海岸 1 遺跡は、北緯 43° 55' 43"、東経 144° 48' 08" 付近、旧ポンシュマトカリペツ川であるマクシベツ川の右岸とオホーツク海とに挟まれた扇状地上に位置します。過去に 2 度の発掘調査が実施されている遺跡で、今回の調査は遺跡の南側部分が対象となっています。調査区はやや高台に位置していたため、旧河川跡範囲を除くと遺物包含層のほとんどが営農活動によって削平されていました。

今回の調査では、縄文時代前期～晩期の遺構や遺物が出土しました。遺構は、縄文時代中期の土坑 4 基、縄文時代晩期の盛土状遺構 1 ヲ所を調査しました。縄文晩期の盛土状遺構はポンシュマトカリペツ 1 遺跡へと続く調査区南側で見つかりました。旧河川により浸食された斜面に火を焚いた跡(焼土跡)が何ヶ所もあり、付近からは土器や石器が数多く見つかりました。遺物は、調査区でも峰浜神社に近い北側では縄文前期(朱円式土器・5,000 年前頃)や縄文中期(トコロ 6 類土器・4,400 年前頃)、縄文後期(堂林式土器・3,700 年前頃)の土器が見つかりました。調査区南側の盛土状遺構からは縄文晩期の他に縄文中期の土器も出土しましたが、その多くは摩滅の著しいものでした。主体は縄文晩期(幣舞式土器・2,500 年前頃)の土器で、盛土遺構もこの時期のものと考えられます。遺物の出土点数は、土器 532 点、石器 595 点、その他 51 点の合計 1,178 点でした。



発掘調査風景



斜面に作られた盛土状遺構

この遺跡についてのお問い合わせは

斜里町立知床博物館

☎ 0152-23-1256

ホームページ <http://shir-etok.myftp.org/>

斜里町埋蔵文化財センター

☎ 0152-23-2017

ホームページ <http://www13.ocn.ne.jp/~siretoko/>

調査理由：開発事業（農業関連・用水路）

調査地：斜里郡斜里町字峰浜 70-1

調査主体：斜里町教育委員会

調査期間：平成 22 年 6 月 16 日～7 月 27 日

調査面積：690 m²

調査の概要

ポンシュマトカリペツ 1 遺跡は、北緯 43° 55' 37"、東経 144° 48' 05" 付近、旧ポンシュマトカリペツ川であるマクシペツ川とシマトカリ川とに挟まれた低地に位置しています。このため、両河川の幾度なく繰り返された氾濫の痕跡が残されていました。

今回の調査で出土した遺構・遺物は、縄文時代中期と晩期のものが多く、調査区のほぼ全域で見つかっています。また、局所的ですが、縄文時代前期（朱円式土器・5,000 年前頃）や続縄文文化期（宇津内Ⅱ式土器・2,200 年前頃）・（後北 C₂・D 式土器・1,700 年前頃）、オホーツク文化期（1,300 年前頃）の土器も出土しました。

縄文中期の遺構は、竪穴住居跡 3 棟、竪穴状遺構 2 基、屋外炉 1 基、土坑 14 基（土坑墓の可能性のあるもの 4 基を含む）が検出されました。竪穴状遺構のうち 1 基は、深さが 1m 以上もありましたが、壁が階段状になっていました。埋まる過程で何度も火を焚いたり、石器を作る時に出る碎片を捨てたりしたらしく、その跡が 11 カ所確認されました。多くはトコロ 6 類土器（4,400 年前頃）のもので、縄文晩期の遺構では、屋外炉 1 基を調査しました。遺物量に比べて遺構数が少ないのがこの時期の特徴で、今回の調査でも遺物は多量に出土するものの、明確な遺構は前述の 1 基のみでした。オホーツク文化期では、焼土跡とその周辺からは台石と倒立した無文土器が検出されました。遺物の出土点数は、土器 6,983 点、石器 7,327 点、その他 420 点の合計 14,730 点出土しました。



竪穴状遺構内出土の焼土跡



オホーツク文化期の焼土跡と台石

この遺跡についてのお問い合わせは

斜里町立知床博物館

☎ 0152-23-1256

ホームページ <http://shir-etok.myftp.org/>

斜里町埋蔵文化財センター

☎ 0152-23-2017

ホームページ <http://www13.ocn.ne.jp/~siretoko/>

調査理由：開発事業（農業関連・用水路）

調査地：斜里郡斜里町字峰浜 94-1・5、153-1・2、155-3

調査主体：斜里町教育委員会

調査期間：平成 22 年 7 月 28 日～8 月 31 日

調査面積：945 m²

調査の概要

峰浜 8 線遺跡は、北緯 43° 55' 14"、東経 144° 47' 17" 付近、峰浜地区の海岸砂丘の南側に広がる低湿地からウナベツ川が形成した扇状地の緩斜面上に立地します。おおよそ、零号道路以北に遺構や遺物が集中し、零号道路以南は営農活動により遺構・遺物とも僅かに残されているだけでした。

今回の調査は、国道 334 号(東 8 線道路)に沿って行なわれました。縄文時代中期の遺構は、土坑 1 基、焼土跡 2 基、盛土状遺構 1 ヲ所が見つかりました。盛土状遺構は、零号道路周辺で見つかり、全体に焼土を多く含むものでした。また、多量の石器剥片や碎片が含まれており、20cm を超える大型の削器を埋納した土坑も見つかりました。今では道路のためほとんど見えませんが、この付近にちょっとした段差があり、その斜面を埋めるように盛土状遺構が構築されたものと考えられます。土器はトコロ 6 類土器(4,400 年前頃)と北筒Ⅲ式土器(4,200 年前頃)が出土しましたが、遺構は大半が北筒Ⅲ式期のものと思われます。遺物の出土点数は、土器 307 点、石器 1,009 点、その他 14 点の合計 1,330 点でした。



盛土状遺構完掘状況



土坑より出土した大型削器

この遺跡についてのお問い合わせは

斜里町立知床博物館

☎ 0152-23-1256

ホームページ <http://shir-etok.myftp.org/>

斜里町埋蔵文化財センター

☎ 0152-23-2017

ホームページ <http://www13.ocn.ne.jp/~siretoko/>

調査理由：開発事業（国道改良）

調査地：斜里郡斜里町字峰浜国道敷地内

調査主体：斜里町教育委員会

調査期間：平成 22 年 9 月 1 日～10 月 31 日

調査面積：2,875 m²

調査の概要

峰浜 8 線遺跡は、北緯 43° 55' 14"、東経 144° 47' 17" 付近、峰浜地区の海岸砂丘の南側に広がる低湿地からウナベツ川が形成した扇状地の緩斜面上に立地します。道営畑総事業と同様、零号道路以北に遺構や遺物が集中し、零号道路以南は営農活動により遺構・遺物とも僅かに残されているだけでした。

今年度は一般国道 334 号の拡張工事に伴い、道路の東側を調査しました。縄文時代中期の遺構は、竪穴住居跡 9 棟、土坑 11 基(このうち、土器を埋納したもの 2 基)、焼土跡 2 基、盛土状遺構 1 ヲ所を調査しました。盛土状遺構は道営畑総事業の調査区側に続いており、全体に焼土を多く含んでいました。道営畑総事業の調査区同様、大量の石器碎片が含まれており、土器を埋納した土坑も見つかりました。縄文中期ではトコロ 6 類土器(4,400 年前頃)と北筒Ⅲ式土器(4,200 年前頃)の土器が出土しました。縄文時代晩期は、調査区の北側の低湿地を中心に遺物包含層の広がりが見られましたが、遺構は土坑 1 基（木根の可能性もある不確実な土坑）を調査したのみです。遺物は内藤遺跡で出土した土器(内藤遺跡第 2 群土器)が主体でした。調査区全域から出土した土器を見ると、縄文時代中期のものと晩期のものばかりで、北側には晩期が多く、南側には中期が多い傾向が見られました。遺物の出土点数は、土器 6,102 点、石器 8,783 点、その他 661 点の合計 15,546 点でした。



縄文中期（竪穴住居跡）土器出土状況



発掘作業風景

この遺跡についてのお問い合わせは

斜里町立知床博物館

☎ 0152-23-1256

ホームページ <http://shir-etok.myftp.org/>

斜里町埋蔵文化財センター

☎ 0152-23-2017

ホームページ <http://www13.ocn.ne.jp/~siretoko/>

調査理由：開発事業（国道改良）

調査地：斜里郡斜里町ウトロ西国道敷地内

調査主体：斜里町教育委員会

調査期間：平成22年9月14日～9月25日

調査面積：55 m²

調査の概要

チャシコツ岬下B遺跡は北緯44°03′45″ 東経144°59′00″ 付近、ウトロ市街の西方にある、チャシコツ崎の南西側の低位海岸段丘面一帯を範囲としています。遺跡は海岸段丘面のすぐ側に迫っている高位海岸段丘斜面から崩落した土砂により埋められています。

昨年度に続いて行われた今年度の発掘調査では、国道334号線道路東側の斜面の一部を調査しました。この道路東側斜面は土砂崩れが頻繁にあり、今年度の調査区も斜面から崩れてきた土砂によって埋められていました。遺構では、オホーツク文化期の貼付文土器（1,200年前頃）を伴う竪穴住居跡を調査しました。土砂崩れにより壁の大部分は消失していましたが、粘土を貼った貼床が検出されました。検出状況から貼床は2度ないし3度の貼り替えがあったと考えられます。オホーツク文化期の住居は、一般的に入口と反対方向にクマなどの骨を積んだ骨塚を設けるのですが、この竪穴住居跡でもシカやクマの歯や手足の骨が見つかっています。その周辺からは、潰れた土器や石器の材料となる黒曜石の剥片も多く出土しました。また、住居の床上や貼床の下からも数多くの石鏃が出土しました。遺物の出土点数は、土器105点、石器466点、その他66点の合計637点でした。



竪穴住居跡（貼床）出土状況



竪穴住居跡出土の石器及びシカの歯

この遺跡についてのお問い合わせは

斜里町立知床博物館

☎ 0152-23-1256

ホームページ <http://shir-etok.myftp.org/>

斜里町埋蔵文化財センター

☎ 0152-23-2017

ホームページ <http://www13.ocn.ne.jp/~siretoko/>

とまこまいし
苫小牧市

かわばら

いせき

柏原31・32・33・34・35・36・37・38遺跡

(掲載番号 J-02-250・251・252・253・254・255・256・257)

調査理由：詳細分布調査（開発区域）

調査地：苫小牧市字柏原 24-1・5・6、53-1、56-1、60、118、120 ほか

調査主体：苫小牧市埋蔵文化財調査センター

調査期間：平成 22 年 6 月 1 日～7 月 24 日

調査面積：2,052 m²

調査の概要

調査地は苫小牧市の東部に位置する苫東開発地域内柏原地区の道道静川美沢線と遠浅川に挟まれた標高17mほどの丘陵部です。調査地は過去にも調査が行われていますが、未調査部分が多い所です。

調査は幅1.5m、長さ6mの試掘穴を30m間隔で228ヵ所掘開し、27ヵ所の試掘穴から土器・石器のほか落とし穴が確認され、8遺跡が新発見されました。柏原31遺跡は縄文時代中期の土器やたたき石・石斧破片など遺物19点、柏原32遺跡は落とし穴 1 基、柏原33遺跡は石鏃・石錘などの遺物4点、柏原34遺跡は縄文時代早期の土器2点、柏原35遺跡は住居跡状遺構 1 基のほか石冠や石錘の破片など遺物14点、柏原36遺跡は石斧やたたき石・石錘の破片など遺物16点、柏原37遺跡では縄文時代晩期を主体に、中期・後期、続縄文時代の土器のほか石鏃・スクレイパー類・石斧・石錘・北海道式石冠など遺物953点、柏原38遺跡では縄文時代前期・中期・晩期の土器のほか石鏃・石斧・たたき石・石錘の破片など遺物58点が確認されています。



遺跡位置図

苫小牧市の遺跡をもっと知りたい方は

苫小牧市埋蔵文化財調査センター まで

所在地：苫小牧市末広町 3 丁目 9 番 7 号

☎ 0144-35-2552

とまこまいし うえなえ いせき
苫小牧市 植苗12遺跡 (掲載番号 J-02-72)

調査理由：開発事業（土砂採取）

調査地：苫小牧市字植苗 369-368・400

調査主体：苫小牧市埋蔵文化財調査センター

調査期間：平成22年5月21日～5月27日、9月1日～9月5日

調査面積：6,260 m²

調査の概要

遺跡はウトナイ沼の西2kmの丘陵部に位置しています。昨年に引き続き工事立会を行い、落とし穴7基を確認し、調査しました。

落とし穴は小型のものから大型のものまでありました。

2年間で11基の落とし穴を調査し、全体の調査を終えました。

苫小牧市の遺跡をもっと知りたい方は
苫小牧市埋蔵文化財調査センター まで
所在地：苫小牧市末広町3丁目9番7号
☎ 0144-35-2552



落とし穴完掘

調査理由：詳細分布調査（範囲確認、C 地点貝塚の内容確認）

調査地：伊達市北黄金町 75

調査主体：伊達市教育委員会

調査期間：平成 22 年 6 月 2 日～10 月 29 日

調査面積：95 m²

調査の概要

北黄金 2 遺跡は、噴火湾（内浦湾）の東側、伊達市の南端部に所在しており、すぐ南には、史跡北黄金貝塚が隣接して立地しています。本遺跡は、今から 50 年ほど前に伊達高校の教諭であった峰山巖によってトレンチ調査が行われ、縄文前期の貝塚（C 地点貝塚）の存在が確認されています。

今年度は、遺跡の範囲確認や C 地点貝塚の範囲・内容確認を目的とする詳細分布調査を行いました。この調査によって検出された遺構は、盛土遺構、土坑墓 1 基（GP001）、貝塚 1 ヲ所、土坑 2 基です。

盛土遺構は、厚さが約 30cm で、耕作によって失われていなければそれ以上に堆積していたものと考えられます。盛土遺構からは、土器、つまみ付ナイフ、石槍、石斧等が出土しています。また、この盛土遺構の下より土坑墓 1 基を検出しています。この土坑墓には、人骨が 1 体伴っていました。副葬品は出土していませんが、盛土遺構との層位的関係から、この土坑墓の時期は縄文時代前期前半と考えられます。

貝塚は、峰山が調査を行った C 地点貝塚とは別に、新たに確認しました。

土坑 2 基はプランを確認したのみで、貝塚および土坑については、来年度に詳細な調査を行う予定です。



GP001 人骨検出状況



C 地点貝塚の調査

C 地点貝塚では、10m×1m のトレンチ 1 ヲ所 (I394) と 5m×1m のトレンチ 2 ヲ所 (J394、J395～400) の調査を行いました。一部内容調査を行ったトレンチは J395～400 です。貝塚には、たくさんの種類の貝や魚類、海獣類などの骨が含まれています。カキ、ホタテ、ウニ、マグロ、カレイ、イルカ、オットセイなどです。地表から約 50cm 掘った段階で、石器、

骨角器、動物骨などが出土しています。その他には、シカの頭骨や大型の土器片の下に加工された鹿角が出土するなど特殊な出土状況があげられます。シカの肉は食糧に、骨は加工して道具に使用できます。しかし、今回出土したシカの頭骨には、先端まで角が残っていました。また、特殊な出土状況の土器片や鹿角などから祭祀・儀礼が行われた可能性が考えられます。

本遺跡の調査は、来年度も継続して行います。このため平成 22・23 年度は、概要報告にとどめ、平成 24 年度に正式な発掘調査報告書を刊行する予定です。

この遺跡についてのお問い合わせは

伊達市噴火湾文化研究所 まで

☎ 0142-21-5050

伊達市の遺跡をもっと知りたい方は

史跡北黄金貝塚公園 まで

所在地：伊達市北黄金町 75 番地

☎ 0142-24-2122

開園期間：4 月～11 月（期間中無休）

開園時間：9:00～16:00

調査理由：詳細分布調査

調査地：虻田郡洞爺湖町入江 76-5 ほか

調査主体：洞爺湖町教育委員会

調査期間：平成 22 年 10 月 1 日～12 月 20 日

調査面積：156 m²

調査の概要

遺跡は噴火湾東岸の、板谷川と赤川に挟まれた標高約 10m の海岸段丘上に位置しており、段丘縁辺には入江貝塚や高砂貝塚など、縄文時代の貝塚が分布しています。調査は、遺跡の範囲確認を目的に、これまで分布調査が行われていなかった箇所について実施しました。調査区として 1m×2m のテストピットを 79 ヶ所に設定し、遺構や遺物の有無を確認しながら調査を進めました。

その結果、遺構では、土坑や柱穴、焼土が検出されました。遺物は、縄文土器・石器・フレイクなどが出土し、縄文土器は、前期後半（約 5,000 年前）や、後期前半から中頃（約 4,000 年前）のものが主体です。

遺構・遺物の分布は、貝塚が形成されている台地の縁辺に集中する傾向がみられ、貝塚から山側へと離れるに従い希薄になります。また、入江貝塚から高砂貝塚までの間では、遺構・遺物の分布が希薄になりながらも、台地縁辺に沿って途切れることなく続くことがわかってきました。これらの報告については、来年度に行う調査と合わせて平成 23 年度に刊行する予定です。



発掘調査風景



入江式土器

この遺跡についてのお問い合わせは **入江・高砂貝塚館** へ

所在地：〒049-5605 虻田郡洞爺湖町高砂町 44 ☎ 0142-76-5802

開館期間：4 月～11 月 開館時間：9 時～17 時まで

洞爺湖町の遺跡をもっと知りたい方は

洞爺湖町教育委員会社会教育課文化振興グループ へ

所在地：〒049-5692 虻田郡洞爺湖町栄町 58 ☎ 0142-74-3010

とうやこちょう たかきごいせき
洞爺湖町 高砂遺跡 (登載番号 J-06-02)

調査理由：開発事業（道路）

調査地：洞爺湖町高砂町 116-62 ほか

調査主体：洞爺湖町教育委員会

調査期間：平成 22 年 11 月 10 日～平成 23 年 3 月 25 日

調査面積：682 m²

調査の概要

高砂遺跡は、噴火湾東部沿岸にあり、赤川の東側に広がる縄文時代の貝塚を伴う遺跡です。海岸からはおよそ 400m の距離があります。

遺跡は昭和 25 年に発見され、数次にわたる調査の結果、およそ 30,000 m² が国史跡に指定されました（史跡入江・高砂貝塚）。時期は縄文時代後・晩期が中心です。

平成 22 年度の調査では、縄文時代の遺構はなく、近世の畝状遺構が調査区の一部に認められました。

遺物は縄文土器、石器、フレイクが出土しています。縄文土器は前期の後半（約 5,000 年前）から後期の中頃（約 4,000 年前）のものがみられました。石器では石鏃、ナイフ類、スクレイパー類が多く、石斧、すり石類や石皿なども若干出土しています。遺物の出土点数は調査面積の割りに少ないといえます。

調査の成果は、次年度発行の報告書に掲載されます。



発掘調査状況



石皿出土状況

この遺跡についてのお問い合わせは **入江・高砂貝塚館** へ

所在地：〒049-5605 虻田郡洞爺湖町高砂町 44 ☎ 0142-76-5802

開館期間：4 月～11 月 開館時間：9 時～17 時まで

洞爺湖町の遺跡をもっと知りたい方は

洞爺湖町教育委員会社会教育課文化振興グループ 

所在地：〒049-5692 虻田郡洞爺湖町栄町 58  0142-74-3010

調査理由：開発事業（ダム）

調査地：勇払郡厚真町字幌内 421、421-2 ほか

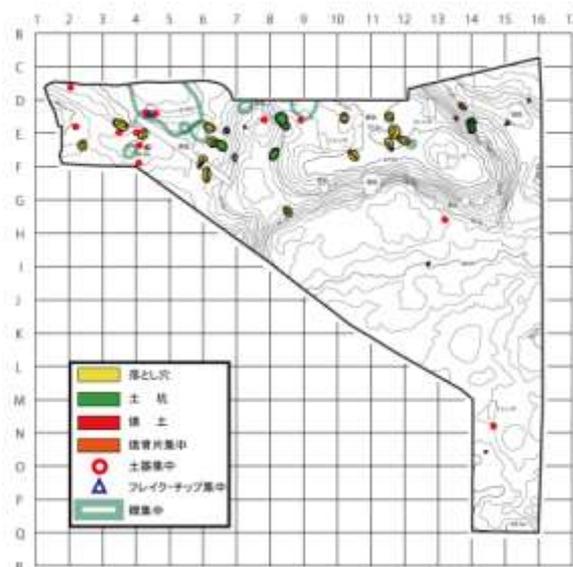
調査主体：厚真町教育委員会

調査期間：平成 22 年 9 月 1 日～9 月 30 日

調査面積：2,283 m²

調査の概要

オニキシベ5遺跡は厚真町市街地より北東約 14 kmに位置し、厚真川支流の鬼岸辺川左岸、^{おにきしべ}標高 66～67mの河岸段丘上に立地しています。遺跡の後背には湧水があります。この湧水の影響により遺跡内は起伏に富んだ地形となっています。平成 22 年度の調査では、遺跡のほぼ西側半分の調査を行いました。



縄文時代遺構配置図



石棒出土状態

発見された遺構は、縄文時代中期後半～後期前半の土坑 7 基、落とし穴 15 基、焼土 6 カ所、土器集中 12 カ所、集石 7 カ所で、遺物は 15,619 点出土しています。内訳は土器 5,290 点、石器 459 点、剥片類 427 点、礫 9,441 点、石製品 2 点（垂飾と石棒が各 1 点）です。土器はタプコブ式土器が最も多く出土しており、次に天神山式、余市式の順です。

遺跡は湧水の影響により、縄文時代中期後半頃までは標高 66.5m 付近まで沼地化していたようですが、後期には完全に離水していたようで、標高 65.8m 付近で石囲い炉が見つかっています。この石囲い炉は大きな風倒木痕の窪みに接して作られています。周囲で柱穴等は見つかりませんでした。自然の窪みを利用して仮小屋としていたようです。周囲の出土土器からタプコブ式土器の頃のものと考えられます。この他に、楕円形の落とし穴の掘り上げ土が見つかり、その下から余市式土器の集中が検出されました。年代決定の難しい遺構ですが、このような状況から余市式土器の頃よりも新しい時期に作られたものであることが判

りました。特筆すべき遺物として、石棒が土坑覆土の上位から出土しています。中期後半

の特徴的な大形のもので、両端には敲打による窪みがあり、器面は敲打後に研磨して整形しています。この時期の石棒としては道内で最東端の出土例と思われます。

発掘調査報告書の刊行は平成 23 年度以降の予定です。

この遺跡についてのお問い合わせは

厚真町教育委員会生涯学習課社会教育グループ ☎ 0145-27-2495 まで

電子メール：atsuma.hakkutsu@bz01.plala.or.jp

調査理由：開発事業（ダム）

調査地：勇払郡厚真町字幌内 114-1 ほか

調査主体：厚真町教育委員会

調査期間：平成 22 年 6 月 1 日～11 月 17 日

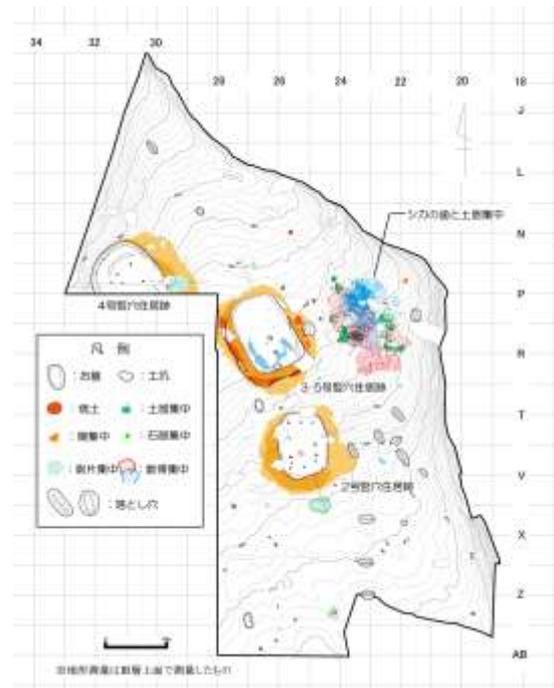
調査面積：3,470 m²（新規着手面積）

調査の概要

ヲチャラセナイ遺跡は厚真川河口から約 30 km、厚真市街地から北西に約 15 km の位置で、厚真川上流域の右岸、支流鬼岸辺川との合流点に面し、舌状に張り出した標高約 68～77m の高位河岸段丘面と標高約 58 m の低位段丘面に立地しています。平成 22 年度は高位段丘面に所在するヲチャラセナイチャシ跡の盛土下 877 m² と新規着手の高位段丘面 3,470 m² を調査しました。

その結果、アイヌ文化期から擦文文化期では、炉跡 19 カ所、建物跡 3 軒などが見つかりました。その他、チャシ跡の盛土下から深さ 1m 以上ある柱跡 8 本、1m 以下が 11 本、削平跡 2 カ所、溝跡 5 条が見つかりました。このうち 1 条の溝跡はチャシの壕と同じ方向のコの字形をしています。

縄文時代では、早期から晩期にかけての遺物が出土し、前期後半が主体となってい



縄文時代遺構配置図

(新規着手地点)

ます。遺構は長軸 10m 以上ある大型の竪穴式住居跡が 4 軒（1 軒重複）、焼土 28 カ所、土器集中 16 カ所、獣骨集中 4 カ所などが見つかりました。住居跡は 3 号住居跡が最大で 13.2m × 8.6m、深さ 0.5m、堆積状態から屋根土はなく周囲に土手を廻らせていたことが分かっています。また、3 号住居跡の約 8 m 東側に 15.8m × 12m の範囲で土器集中 9 カ所と未被熱のシカ歯冠、被熱のシカ四肢骨が密集して見つかりました。シカの歯周辺の土器は、円筒土



縄文前期後半 大型竪穴式住居跡

(手前:3 号住居跡)

器下層式系の道南系が主体を占めていますが、中には道東北部系のシュブノツナイ式土器も出土しています。土器には前年度と同様に滑石を含むものもみられます。土器の出土状態から、シカの歯を中心とする捨て場跡は、縄文時代前期後半のものと考えられます。遺物総数は、土器、石器、礫のほか、金属製品や厚真町で初めてとなる中国産青磁碗の破片などを加え、約 44,000 点でした。

発掘調査は次年度以降も継続で、発掘報告書の刊行は平成 23 年以降となります。

この遺跡についてのお問い合わせは

厚真町教育委員会生涯学習課社会教育グループ ☎ 0145-27-2495 まで

電子メール：atsuma.hakkutsu@bz01.plala.or.jp

調査理由：開発事業（宅地造成・道路部分）

調査地：勇払郡厚真町字豊沢 240-2

調査主体：厚真町教育委員会

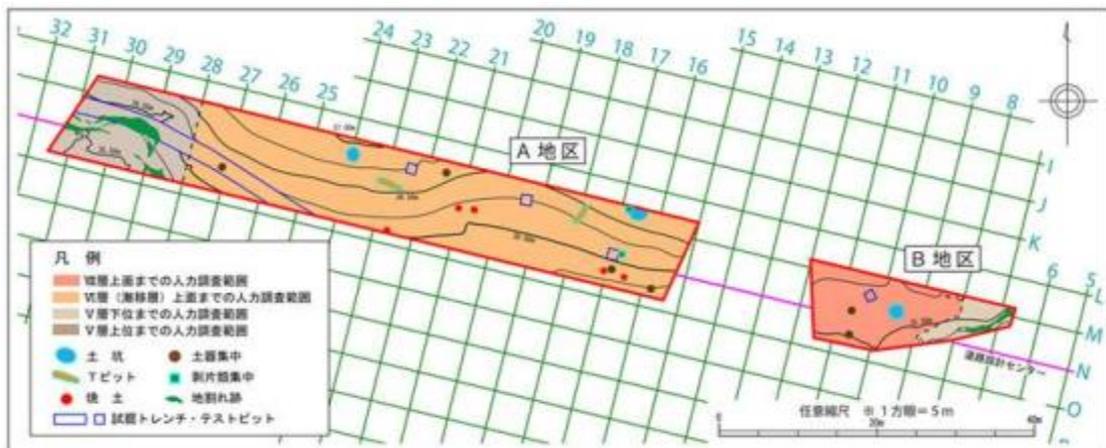
調査期間：平成 22 年 9 月 1 日～9 月 30 日

調査面積：1,085 m²

調査の概要

豊沢6遺跡は、厚真町市街地より南東約 1.8km、厚真川水系当麻内川の無名支流の中流域北岸に位置しています。遺跡は、背後の丘陵から張り出す標高 37m 前後の南向きの緩斜面に立地し、無名沢周辺に形成されている低湿地から約 1m 前後高い微高地に残されています。南側は無名沢の低湿地で開けており、日照条件は極めて良好です。また、北側は比高差約 15m の丘陵となっており、冬期間の北西方向からの強い季節風が遮られる、住み良い環境でもあります。

今年度は、宅地造成に伴う道路部分の発掘調査を実施し、土器 1,732 点、石器 356 点、剥片類 1,325 点、礫 107 点、石製品 4 点、合計 3,524 点の遺物が出土しました。



遺構配置地図

調査区は、試掘調査の結果から、西側のA地区と、東側のB地区に分けられました。

A地区では、縄文時代中期末葉の北筒式土器が圧倒的の主体を占め、これに伴うと思われる道南系の煉瓦台～天祐寺式にかけての土器が数個体出土しています。遺構は直径約 2.2 m、深さ約 0.3m の浅い円形の土坑 2 基、焼土 5 ヲ所のほか、より古い時期に構築された溝状の落とし穴 2 基を検出しています。

B地区では、縄文時代早期後葉の東釧路Ⅲ式土器が主体を占め、直径約 2.1m、深さ約 0.3m の円形の土坑 1 基を検出しました。

これら考古学的資料のほかA・B地区のそれぞれで地割れ跡を検出しました。形成時期は樽前c火山灰降下（約 2,500 年前）以降、白頭山苦小牧火山灰降下（約 1,000 年前）以前です。いずれも微高地の縁辺部に沿って検出しており、現在の微地形がこの時の地震に

よってさらに顕著になったことがわかりました。

この遺跡についてのお問い合わせは

厚真町教育委員会生涯学習課社会教育グループ ☎ 0145-27-2495 まで

電子メール：atsuma.hakkutsu@bz01.plala.or.jp

調査理由：開発事業（火山灰採取）

調査地：勇払郡厚真町字東和 117-2

調査主体：厚真町教育委員会

調査期間：平成 22 年 4 月 19 日～5 月 6 日

調査面積：646 m²

調査の概要

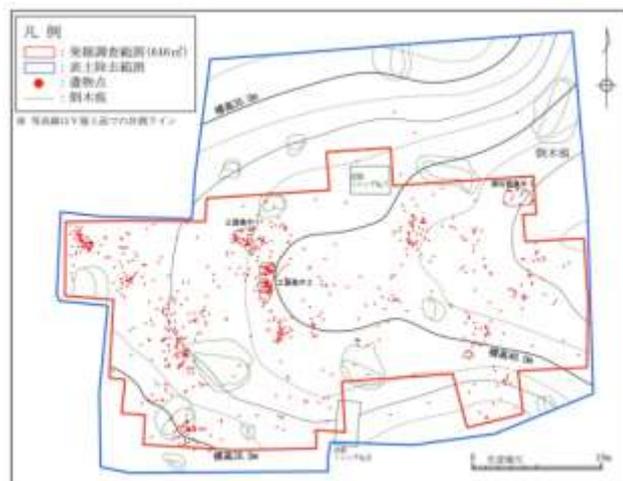
東和3遺跡は、厚真町市街地より南東約 2.8km、厚真川中流域左岸に位置しています。遺跡は、西へ張り出す標高 43m 前後の開折が進んだ古い河岸段丘面に立地し、やや広い尾根状地形の稜部分から南西向きの緩斜面にかけて営まれています。厚真川流域の沖積低地からの比高差は約 20m と高い場所にあり、厚真町内の遺跡でも特異な立地形態です。頂部付近に広がるため、眺望は非常に良いものの、風当たりの強い場所でもあります。

発掘調査の結果、遺構は検出されませんでした。土器 414 点、石器 98 点、剥片類 334 点、礫 207 点、合計 1,053 点の遺物が出土しました。これらの多くは縄文時代早期中葉の東釧路Ⅲ式期のもので、東釧路Ⅳ式期のもも僅かにみられます。これらの出土遺物は、黒色腐植土が発達する以前の暗褐色の漸移層中から出土したものです。

厚真町内における縄文早期の遺跡は、平成 14 年度から始まった厚真川上流域での厚幌ダム建設の調査では殆ど見つかっていませんが、厚真町南部での苫東開発や日高自動車道建設に伴う発掘調査、その他の試掘調査で数多く発見されていることから、町内における縄文文化は、厚真川下流域（海岸部）から入ってきて、拡散した可能性が見えてきました。



東和3遺跡周辺地形図



東和3遺跡遺物分布図

この遺跡についてのお問い合わせは

厚真町教育委員会生涯学習課社会教育グループ ☎ 0145-27-2495 まで

電子メール：atsuma.hakkutsu@bz01.plala.or.jp

調査理由：開発事業（道路）

調査地：勇払郡厚真町字吉野 202-4, 203-3, 206-2, 215-2, 237-4, 239-6 ほか

調査主体：厚真町教育委員会

調査期間：平成 22 年 9 月 1 日～平成 22 年 11 月 30 日

調査面積：2,400 m²

調査の概要

ワイカルマイ遺跡は厚真町市街地の北東約 4 km に位置し、厚真川中流域の標高約 26～27m の低位河岸段丘に立地しています。本遺跡と厚真川の間は沖積地には水田が、後背には標高 80m ほどの山地性丘陵が広がっています。厚真町吉野地区は明治 17 年に農業入植のため和人が移住しています。また造材運搬のため早来から厚真町幌内を結ぶ早来軌道（馬車軌道）が明治 37 年に敷設されました。調査では、続縄文時代から開拓期以降に及ぶ遺構や遺物を検出しましたが、これらは厚真町にとって貴重な資料であることから、早来軌道が廃線となる昭和 24 年までを調査対象としました。

発見された遺構は、続縄文時代の土器集中 2 ヶ所、擦文文化期の焼土 7 ヶ所、礫集中 1 ヶ所、中世アイヌ文化期の焼土 2 ヶ所、灰集中 1 ヶ所、礫集中 3 ヶ所、獣骨集中 3 ヶ所、近世アイヌ文化期の道跡 3 条、近代の建物跡 4 棟、土室跡 2 基などです。

遺物は 3,110 点出土しており、内訳は土器 511 点、剥片石器 1 点、剥片 10 点、礫石器 15 点、礫 1,032 点、陶磁器類 1,221 点、金属製品 178 点、

ガラス製品 138 点、石製品 3 点、漆製品 1 点です。続縄文時代と擦文文化期の遺物は、調査区北東側で北大式土器 2 個体、擦文土器の底部



遺跡の位置



道跡の検出状況

破片などがみつかっています。擦文土器が出土した周辺には焼土も見つかりました。中世アイヌ文化期の遺構や遺物は調査区の南西側に集中しています。焼土や灰集中の近くからは、蝦夷太刀（全長約 50cm）1 振と鉄鍋片などが出土しています。集石は主に錘石がまとまったもので、獣骨集中はシカの四肢骨や歯が集中したものです。近世アイヌ文化期の道跡のうち 2 条は調査区北東端で見つかり、調査区外の南北方向へ更に延びています。近代の建物跡からは、幕末から明治頃の陶磁器やガラス瓶、古銭、鉄製のヤス、シカの骨、貝殻など和人文化に伴うと考えられる遺物が見つかりました。

発掘調査報告書は平成 24 年度に刊行する予定です。

この遺跡についてのお問い合わせは

厚真町教育委員会生涯学習課社会教育グループ ☎ 0145-27-2495 まで

電子メール：atsuma.hakkutsu@bz01.plala.or.jp

調査理由：開発事業（道路）

調査地：沙流郡日高町字賀張 95-2

調査主体：日高町教育委員会

調査期間：平成 22 年 5 月 1 日～5 月 19 日

調査面積：3,000 m²

調査の概要

遺跡は、日高町門別地区賀張川左岸の標高 50m～60mの河岸段丘に位置します。遺跡の名前の由来が、ポロ・ペチリ(大きな・水のしたたり)であること、また、古地図などから、かつては遺跡の周囲に水が湧き出る窪地があったようですが、農地造成のため現在は緩やかな牧草地へと姿を変えています。

遺跡が発見された経緯は、高規格道路建設工事に伴う埋蔵文化財試掘調査により、遺構(Tピット)が確認されたもので、発掘調査の実施にあたっては、試掘調査で遺物が1点も出土しなかったこと、確認された遺構がTピットであったこと、遺跡の立地が斜面であったことなどを総合的に判断し、遺構確認調査としました。

調査の結果、遺物は何も出土しませんでした。Tピットは 20 基確認しました。このうち、楕円形のTピット 2 基の底には 3 ヲ所の杭跡があり、Tピットの杭跡としては、門別地区では初めての発掘例となりました。

報告書は平成 22 年 9 月 30 日に刊行しています。



Tピット 14 完掘

この遺跡についてのお問い合わせは **日高町立門別図書館郷土資料館** まで

所在地：〒055-0004 沙流郡日高町富川東1丁目3番1号

☎ 01456-2-3746 FAX 01456-2-3711

開館時間：平日 10時～18時・土/日 10時～17時

休館日：月曜日・祝日・月末

調査理由：詳細分布調査

調査地：標茶町字塘路6-1

調査主体：標茶町郷土館

調査期間：平成22年9月24日～平成22年11月17日

調査面積：11 m²

調査の概要

エカシベカンベ遺跡第2地点は、塘路湖南岸の低位段丘に位置しています。この付近は塘路湖からアレキナイ川へ注ぐ河口付近に位置しており、周辺には埋蔵文化財包蔵地が数多く確認されています。

本遺跡は昨年実施した詳細分布調査で確認されたもので、昨年の調査では、土坑1基と縄文早期の東釧路Ⅱ式土器が確認されています。

今回の調査地点は、入江状に入り込んだ塘路湖を西側に臨む段丘上で、標高は8～9mを測り、湖からの距離は約30mです。発掘区域は、昨年の調査地点に隣接する、円形の竪穴状落ち込みです。落ち込みは、調査前地形測量で、全周約5mの円形で深さ20cmを測りました。



遺跡位置図



完掘状況

調査の結果、円形の落ち込みは風倒木の跡であった事が明らかとなりました。

その他の遺構は検出されませんでした。

出土した遺物は6点。そのうち1点は、縄文中期の北筒式土器の胴部片でした。

本調査では大きな成果を得ることはできませんでしたが、付近には竪穴状の落ち込みがいくつも見られるため、今後、縄文中期の竪穴住居跡が発見される可能性が考えられます。

この遺跡についてのお問い合わせは **標茶町教育委員会** まで

所在地：標茶町常盤8丁目8番地

☎ (代) 015-485-2111

Fax 015-485-3764

調査理由：開発事業（電波塔建設）

調査地：標茶町字塘路ウライヤ 35 地先

調査主体：標茶町教育委員会

調査期間：平成 22 年 5 月 10 日～平成 22 年 6 月 14 日

調査面積：55 m²

調査の概要

ウライヤ遺跡越善地点は、塘路湖と釧路川を結ぶアレキナイ川右岸の低位河岸段丘面に位置し、塘路湖に面する川口から川に沿って細長く包蔵地が広がるものと予想されています。今回の調査地点は、図示したとおり、塘路湖とアレキナイ川に面しており、川からの距離がおよそ 60m、標高 8～9 m ほどの台地先端部にあたります。

本遺跡では、これまでの分布調査や公共下水道事業に係る発掘調査によって、縄文前期～後期、続縄文期、擦文期にわたる幅広い時期の遺構、遺物が確認されています。



竪穴状遺構全景



遺跡位置図

発掘調査の結果、遺構としては竪穴状遺構 1 基、土坑 2 基、墓坑 1 基が検出されました。遺物総数は 1,119 点。土器には、縄文前期、中期、続縄文期、擦文期のものがあり、そのうち前期の土器が最も多く出土しています。石器は、石鏃、石匙、磨製石斧、砥石など 33 点でした。

検出された竪穴状遺構は、上層に Ta-a、ko-c2 が堆積しており、層序の観察によると時期的には擦文期と考えられます。大きさは幅 2.3m で、長さは調査範囲内で 7m です。土坑 2 基は縄文早期と考えられ、墓坑は、長軸 1.25m × 短軸 0.9 m の楕円形で、縄文早期～前期のものと考えられます。墓坑の底面にはベンガラが堆積し、人骨の歯部分のみ取り上げる事ができました。

今回の成果は、現在でも未発掘の包蔵地が残される塘路湖周辺地域において、今後にかさす事のできる新しいデータが得られたものとして

評価されるでしょう。なお、本調査の報告書は、平成 22 年度末に刊行する予定です。

この遺跡についてのお問い合わせは **標茶町教育委員会** まで

所在地：標茶町常盤8丁目8番地

☎ (代) 015-485-2111

Fax 015-485-3764

調査理由：詳細分布調査

調査地：根室市温根沼 343-1、2

調査主体：根室市教育委員会

調査期間：平成 22 年 8 月 23 日～9 月 15 日

調査面積：20 m²

調査の概要

関江谷 1 堅穴群は、根室半島の付け根に位置する温根沼(周囲約 14km)の北岸、標高 10～13mの台地上に立地します。1954 年に北海道大学の 大場利夫氏らが 擦文時代の 堅穴住居 3 基と 縄文時代の 貝塚 1 基を調査しており、貝塚中から 縄文時代前期の 押型文・尖底を 発掘し 温根沼式土器と名づけました。市内では 数少ない 縄文貝塚であり、なおかつ 標識遺跡 となっていますが、調査から 50 年以上が経ち 遺跡周辺の環境も 牧草地から 山林に変わり、大場氏の調査地点や遺跡の内容もわからなくなっていることから、遺跡の広がり と内容を 確認する 目的で、踏査・測量・試掘などの調査を行っています。

昨年の調査では、温根沼を臨む遺跡の南西斜面を精査した結果、約 60 m²にわたり 貝の散らばりを確認しました。また、57 年前の調査トレンチの跡も確認することができました。今年度は 貝塚をもう少し掘り進め、どのような場所に 貝塚が作られているのかということを確認しました。

発掘の結果、台地上のわずかに ぼ地に 貝殻や魚の骨などが捨てられ続け、貝塚が形成されていることがわかりました。貝塚は 摩周火山灰 (ma-f) の上に 黒土を 1 枚はさんで作られており、摩周火山灰の黒土層からは 東釧路 IV 式土器、貝層からは 押型文土器が出土しています。出土遺物は 土器が 293 点、石鏃 3 点、磨石 1 点、叩石 1 点です。

貝塚を構成する貝は、アサリが一番多く 次いで オオノガイ、ウバガイと続きます。貝塚から出土する貝殻には 温暖種は含まれず、現在とれる種類とそう変わりません。魚類は カレイ類と ニシンが大部分を占めています。カレイ類はほとんど 小型のものです。昨年も紹介しましたが、この貝塚では、今は



調査地点



サバ類椎骨出土状況

根室で獲れないサバ類の骨が出土しています。体長 30cm～40cm くらいの標本と同じ大きさなので、かなり良型のサバ類が沿岸まで回遊していたことがわかっています。今年の調査ではサバ類の椎骨の一部が、つながった状態で出土しました。

道東道北のオホーツク海側は縄文貝塚が 3 ヶ所程度しかなく、この地域の縄文人の動物資源利用は不明な部分が多い状況です。今後の整理や調査研究を通して情報を蓄積していきたいと思います。

この遺跡についてのお問い合わせは **根室市歴史と自然の資料館** まで
所在地:根室市花咲港 209 ☎ 0153-25-3661

調査理由：史跡整備

調査地：標津郡標津町字伊茶仁 57-3

調査主体：標津町教育委員会

調査期間：平成 22 年 7 月 14 日～9 月 30 日まで

調査面積：176 m²

調査の概要

史跡標津遺跡群伊茶仁カリカリウス遺跡は、標津町字伊茶仁の集落から南西に 1 km ほどの地点にあり、伊茶仁川とその支流ポー川に挟まれた台地上にあります。調査は史跡の内容を把握し、整備活用を図る目的で平成 16 年度から継続して行っており、今回で 7 年目となります。今年度の調査は、史跡指定地の南寄りを通る、無名のポー川支流兩岸の段丘上で行いました。段丘上には、縄文時代を中心とする円・楕円形の竪穴住居跡の窪みが分布しています。この分布域に 2m×2m 規模の試掘坑 34 ヶ所と、これまで周堤墓の可能性があると考えられていた直径 10m 規模の窪みに 2m×20m のロングトレンチを設定し、発掘調査を行いました。

調査の結果、縄文早期の竪穴住居跡 1、縄文中期末～後期初頭の竪穴住居跡 7、土坑 2 などの遺構が検出されました。特記事項として、縄文時代中期末～後期初頭の竪穴住居跡 7 軒の内 4 軒で、古い竪穴窪みの再利用を確認しました。また、竪穴に関連する焼土を数ヶ所検出しましたが、遺跡内の他地点でみつかった焼土に比べ、土壌中に含まれる焼骨片の量が少ない傾向がありました。そして、ロングトレンチを設定した窪みについては、周堤墓ではなく、縄文中期末～後期初頭のトコロ 5 類土器を伴う、直径 12m 規模の竪穴住居跡であることを確認しました。このほか、擦文時代の後半期からアイヌ文化期に属する集石を 1 ヶ所検出しています。



縄文中期竪穴住居跡



縄文早期土器片出土状態

遺物は、土器片 380 点、剥片石器 51 点、礫石器 20 点、フレイク 195 点、礫 453 点の合

計 1,099 点が出土しました。土器は、縄文中期末～後期初頭のトコロ 5 類を中心に、早期の東釧路Ⅱ式、東釧路Ⅳ式相当の土器片が少量出土したほか、続縄文時代の後北 C₂・D 式の注口部破片も出土しています。石器は石鏃、つまみ付ナイフといった定型的なものも出土していますが、縦長剥片を素材としたサイドスクレーパーや RF が主体を占めていました。

以上の成果より、今回の調査地点は主に縄文中期末～後期初頭の集落として利用されていたことが明らかになりました。そして竪穴窪みが高い頻度で再利用されていたことや、定型的な石器が少なかったこと、焼土中の骨片の量が少ないといった内容は、この地点での活動を反映している可能性が考えられます。今後、標津遺跡群の他地点での調査内容と比較検討し、当地点での遺跡利用の実態に迫っていきたいと思います。

この遺跡についてのお問い合わせは **標津町ポー川史跡自然公園** まで

所在地 : 標津郡標津町字伊茶仁 2784 番地

☎・Fax 0153-82-3674

開園日 : 4月29日～11月23日 (期間中無休)

平成23年3月 発行

市町村における発掘調査の概要 平成22年度(2010年度)

編集・発行

北海道教育庁 生涯学習推進局 文化・スポーツ課

〒060-8544 北海道札幌市中央区北3条西7丁目

TEL 011-231-4111 内線35-606